

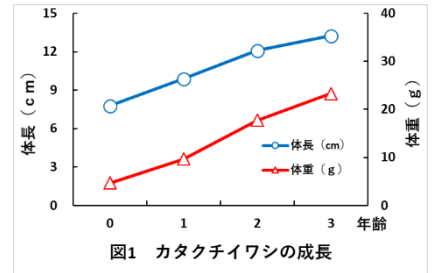
カタクチイワシ (せぐろいわし)



生態的特徴等

【生態】

日本周辺に広く分布し、太平洋側では夏季に千島列島周辺まで回遊する沖合回遊群と沿岸域周辺にとどまる沿岸回遊群がいると考えられている。沖合回遊群は秋から冬にかけて三陸～房総海域を南下する。産卵期は冬を除く周年（盛期は4～8月）で、太平洋沿岸の各地で産卵する。主に動物プランクトンを食べて成長し、1歳で成熟、寿命は4歳程度である。成長に伴って呼び名が変わり、シラス（体長：2.5～3.5 cm）、カエリ（4～5 cm）、ジャミセグロ（6～7 cm）、中セグロ（8～9 cm）、ゴボウ（10～11 cm）、大ゴボウ（12 cm～）と呼ばれる。



【漁法と盛漁期】

茨城県では、主にまき網で夏～秋にジャミセグロ～中セグロが漁獲され、冬～春にゴボウ～大ゴボウが漁獲される。シラスは船曳網で春～秋に漁獲される。

【利用】

カエリ～中セグロは煮干しの原料、ゴボウ～大ゴボウは目刺しや桜干しなどに加工される。生後1～2ヶ月のシラスはシラス干しの原料となっている。

資源は高位水準、動向は増加傾向

（漁獲量）千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量は、平成年代に入って急増し、H10～16年は10～20万トンで推移したが、その後急激に減少してH30年以降は1千トンを下回り、R4年は0.3千トンとなっている（図2）。

（水準と動向）国の資源評価（R5年度）によると、親魚量はH10年代後半から減少傾向にあったが、R1以降増加傾向でR4年は「目標管理基準」を上回り、親魚量の動向は直近5年間（2018～2022年）の推移から「増加」とされている（図3）。

水準



(国)

動向



(国)

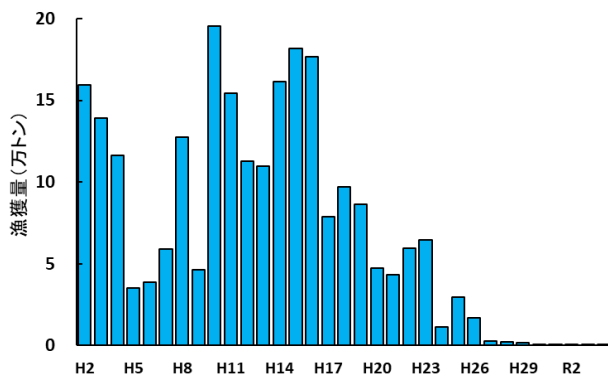


図2 カタクチイワシ漁獲量^{※1}の推移

※1 千葉県から青森県沖で操業するまき網の漁獲量で、北部太平洋まき網漁業協同組合連合会の集計値

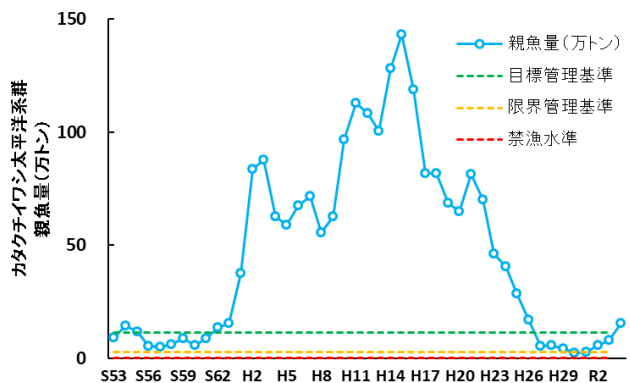


図3 カタクチイワシ太平洋系群の親魚量の推移^{※2}

※2 新たな資源管理 (MSY) に基づく管理基準値通常加入期 (S53～S62、H22～R4) における MSY

【全国の漁獲動向】

- ・茨城県の漁獲量は全国第22位、1位は長崎県、2位は三重県、3位は大阪府。（R4農統）

評価期間：令和4年1～12月 更新日：令和6年3月27日